



# 咲き誇れ 太陽の子どもたち

## タヒチアンダンス「オテア」①

打楽器の激しいリズムに合わせて踊る情熱的なダンスです



## サモアダンス「ファイヤーナイフダンス」②

打楽器のリズムに合わせて火のついたスティックでパフォーマンスをする勇壮なダンスです



## タヒチアンダンス「アパリマ」③

ゆったりした曲に合わせて、指の動きで歴史や感情を表現するダンスです。ハワイのフラダンスのルーツともいわれています



マハナティアレオリタヒチ代表の坂田 彩子さんとアシスタントの榎木 史菜さん

タヒチアンダンスチーム

マハナ ティアレオリタヒチ

MAHANA Trare Ori Tahiti



子どもクラスの皆さん



民俗楽器の演奏

生演奏で踊る時は、ウクレレやバンジョー、太鼓などの民俗楽器を使います

**現地の空気感にこだわり 伝統舞踊の大切さを知って**

ポリネシアでは、古代から文字や言葉の代わりに歴史や物語、感情をダンスで表現していました。現地では髪や衣装を飾るレイ（首飾り）やヘイ（花冠）なども、生花や自然のものを使って自分で作るのが決まりだそう。

坂田さんは「南国の太陽と大地に育まれてきたダンスは、そのまま太陽のように元気で情熱的です。日本の伝統文化とは趣が違いますが、大切に受け継がれてきた伝統文化です。子どもたちにも、舞台を見る人にもそれを伝えたい」と話していました。

**子どもたちの踊りと笑顔が 地域にも元気をくれる**

坂田さんは、子どもたちやチームメンバーがダンスを発表できるイベントなどの参加依頼を積極的に受けているといいます。夏になると毎週のように出演依頼があるのだとか。

ダンスの衣装を恥かしがっていた子どもや、スティックの火を怖がっていた子どもも、ステージに立ち、人前で踊ることで「非日常の高揚感でみんなと一緒に踊るのが楽しい」「本番で成功したら自信ができた。またステージに立ちたい」と、太陽のような笑顔で「キラキラした目」をしてくれるといいます。「太陽の花のような笑顔とダンスは、メンバーだけでなく多くの人や地域も元気にしてくれます」と坂田さんは自信に満ちた笑顔を見せていました。

**チーム名は「太陽の花」 キラキラの目の子どもたち**

大人から子どもまで約50人のダンスチーム「マハナティアレオリタヒチ」の名前は、「タヒチの太陽の花」という意味です。代表の坂田 彩子さんは、旅先で見たダンスの虜になってタヒチアンダンスを始めました。「もっと踊りたい」「ポリネシアのダンスを広く知ってほしい」「現地の空気感を再現したい」など、さまざまな思いが募って、7年前にチームを立ち上げました。

映画「フラガール」に憧れて踊り始めたという榎木 史菜さんも、創立メンバーの一人です。当時は大人ばかりのチームでした。子育ての真っ最中だった坂田さんと榎木さんは、お母さんの真似をして楽しそうにダンスを踊るわが子を見て「こんなにキラキラした目をして踊るんだな」と、

**パレオ姿で元気に練習 南国のリズムでダンス**

取材に訪れた日、玉津公民館に子どもたちが集まってきました。ホットパンツの上にパレオを巻いて、髪にティアレ（花）を飾ってダンスの練習が始まります。

おへそで首をとる非日常的な南国のダンスに、子どもたちの気持ちも高まっています。激しいリズムの情熱的な「オテア」を踊る子どもたち。スティックを回しながら勇壮な「ファイヤーナイフダンス」の練習をする子どもたち。

「マハナティアレオリタヒチ」は、タヒチアンダンスを中心に、サモアダンスなどポリネシアの伝統芸能を元気に踊るダンスチームです。チームの子どもクラスは玉津公民館を拠点に練習を重ね、市内外のイベントなどで熱いパフォーマンスを披露しています。

うれしい衝撃を受けたそうです。ダンスの新しい可能性を感じ、3年前に榎木さんの住む地域の公民館を借りて、子どもチームを作ることになりました。

現在は地元の子を中心に子どもたちが集まり、「オテア」写真①と「ファイヤーナイフダンス」②の練習をしています。